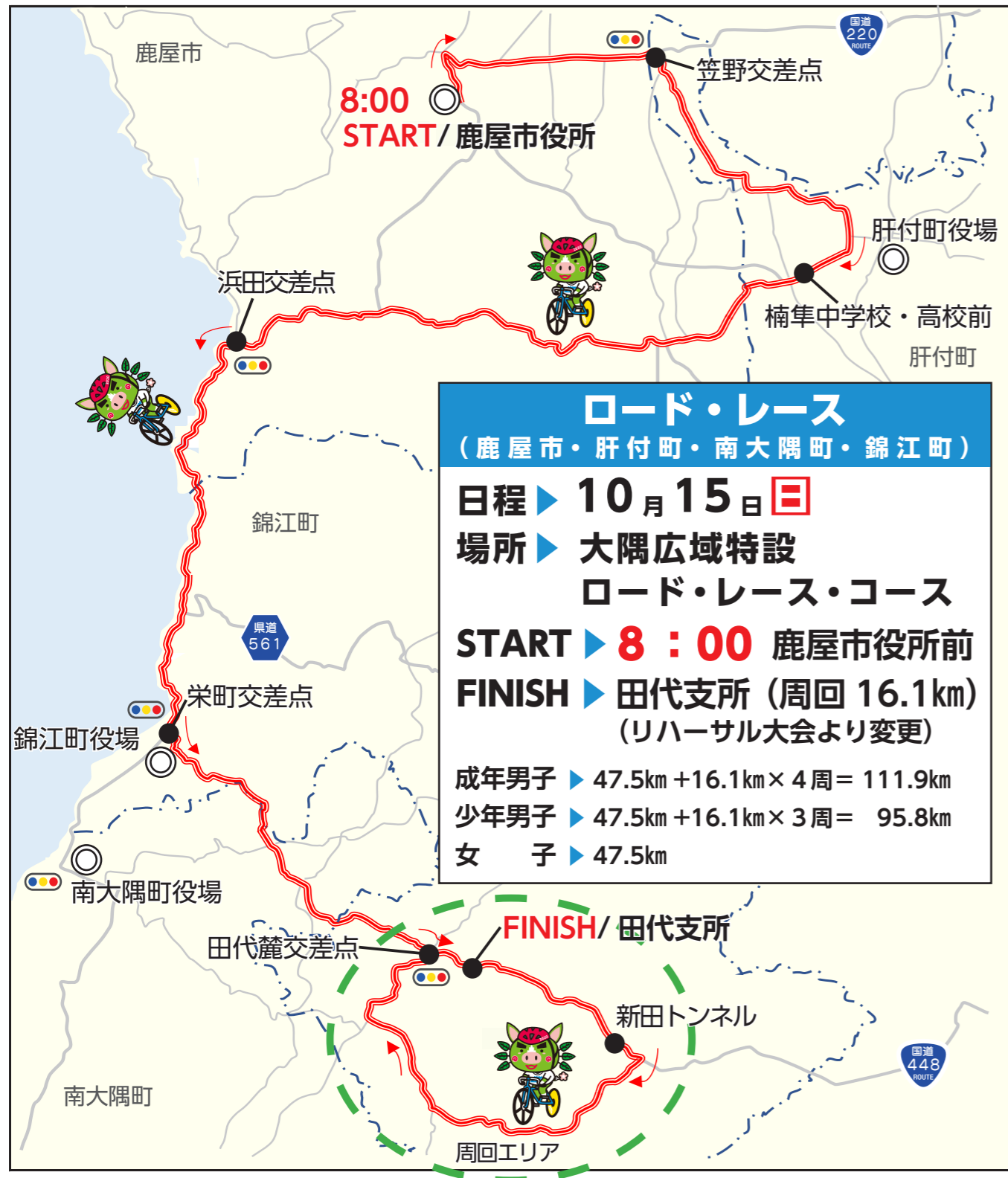


燃ゆる感動 かがしま国体

特別国民体育大会 熱い鼓動 風は南から 2023

ロード・レースのコース変更について

特別国民体育大会「燃ゆる感動かがしま国体」の開催まで、あと半年となりました。自転車ロード・レースの開催地である町でも、競技開催に向けて取り組みが始まっています。今回は10月に開催されるロード・レースの日程やコースについてお知らせします。



牛飼純平医師 (錦江町皆倉出身) 肝属郡医師会立病院に勤務

錦江町出身 (皆倉) の牛飼純平医師が今年の4月より肝属郡医師会立病院の内科医として着任しました。医師を目指したきっかけや地域医療への想いなどについて話を伺いました。

錦江町に生まれた自分が地元のために貢献できること

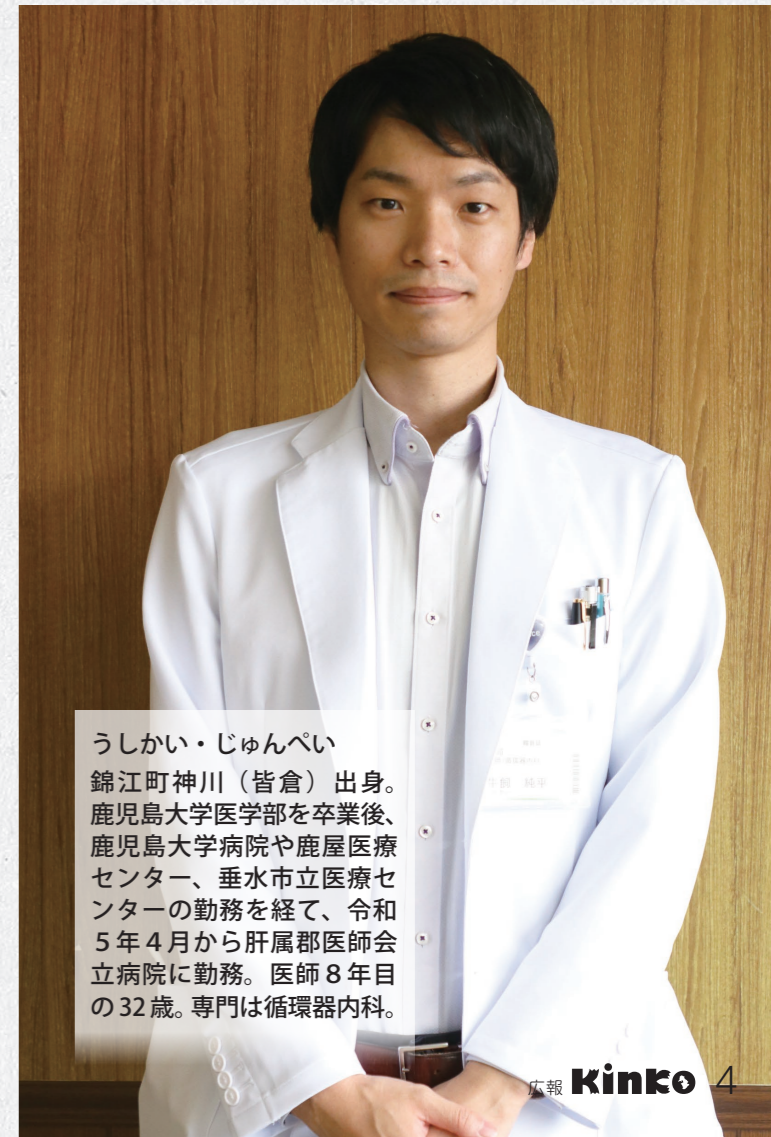
令和5年4月から錦江町神川(皆倉)出身の牛飼純平医師が肝属郡医師会立病院の内科・循環器内科の専門医として着任。鹿児島大学医学部を卒業し、鹿児島大学病院で内科や総合的医療についても経験。鹿屋医療センターや垂水市立医療センター・垂水市中央病院に務め、内科一般やカテーテル治療の技術を磨いた。錦江町で医師として働くことを見据え、さまざまな経験を積むことや必要なスキル取得へ積極的に取り組んだ。医師を目指すきっかけとなったのは高校での進路選択の時。地元に関わることを職業にしたいと思っていたが、考えがまとまらず悩む日々。そんな中、錦江町で生まれた自分がこの地域で貢献できることをしたいという想いが次第に強くなっていった。「当時から医師不足の問題があり、自分にはできないかと思う、医師を目指すことを決意した」と振り返る。

地域に合わせた医療を提供できるような体制づくり

行動に移すのは難しいと思うが、健診を受診し、病気を予防することに意識してほしい。明らかに治る病気やケガを治療もせず、そのままにしておくや寝たきりや命を落とす可能性もある。医師などが患者の自宅を訪問して診療を行う在宅医療。在宅医療に関わる多くの方との連携が必要だが、人手を確保し病院の機能を

持続していくことが前提となる。

現在、医療従事者の不足はどこかの地域でも課題となっており、人材の確保が重要となっている。働き方の見直しや提示、都市部から持続して勤務できるような体制整備が必要であると話す牛飼医師。人口や場所などにより必要な医療は異なり、今後は病院と医療従事者との連携が重要となってくる。「地域に合わせた医療を提供できるような体制づくりを目指していきたい」と想いを語りました。



うしかい・じゅんぺい
錦江町神川(皆倉)出身。鹿児島大学医学部を卒業後、鹿児島大学病院や鹿屋医療センター、垂水市立医療センターの勤務を経て、令和5年4月から肝属郡医師会立病院に勤務。医師8年目の32歳。専門は循環器内科。